

高齢者の交通事故対策は

富安 伸志 議員

答 交通弱者に配慮した交通安全対策の検討をしていく

問 高齢者の交通事故の現状についての見解と筑後市における現状は。
市長 交通事故件数全体が減少しているが高齢者が関係する事故が増加しており見過ごすことほできない。
地域支援課長 県の平均よりも筑後市での高齢者の事故比率は高い数値で推移している。全国での結果であるが高齢者の事故だけでも、死亡事故の約半数が歩行中の事故と



夕方、夜間の外出は反射材用品を(警視庁HPから)

なっている。また高齢者自身の交通ルール違反が多いことが報告されている。
問 高齢者への交通安全の啓発の取り組みをさらに充実させることが必要と思うが見解は。
地域支援課長 近年の交通事故の動向、高齢者の増加などを考えると、高齢者対象の交通安全対策をさらに充実することが必要だ。警察など関係機

関と連携しながら、有効な方法を検討したい。
問 高齢者など交通弱者対策としての視点をもった道路整備も含めた交通安全施設の整備も必要では。
道路・水路課長 行政区などと連携し交通弱者に配慮した交通安全対策の検討をしていきたい。

今後の筑後市の教育行政は

村上博昭 議員

答 第五次筑後市総合計画の柱となる

全国学力テスト全国平均を下回る

問 平成26年度の全国学力・学習状況調査の結果は。また、この結果をどのように受け止めるか。
学校教育課長 中学3年生において国語の知識の習得、国語・数学の知識の活用において全国平均を初めて下回った。この

結果を踏まえ、教務主任研修の中で、学力・学習状況調査の結果をもとに成果や課題、改善の方向性を説明し、学校内の研修等において実践を行っている。

スマートフォンと学力の相関関係は
問 スマートフォンの中心としたSNSの利用が学力低下の要因の一つだと言われるが市の対応は。
学校教育課長 学校と保護者との協議のもとスマートフォンの使用基準等について市全体の取組みにしたいと考える。

また教育委員会では毎年、学校訪問を実施し、各学校の課題解決のため、学校への指導・助言とともに情報と意識の共有を

また教育委員会では毎年、学校訪問を実施し、各学校の課題解決のため、学校への指導・助言とともに情報と意識の共有を

問 来年度の教育委員会制度改正により、市長の権限と責任が増すが、5年、10年後の本市の教育行政をどう考えるか。
市長 第五次総合計画の中で教育問題は大きな柱となる。きちんとした教育方針を作っていく。



スマートフォンは便利であるが

※SNSとは
人と人とのつながりをサポートするサイトのこと